

郷土かわらばん

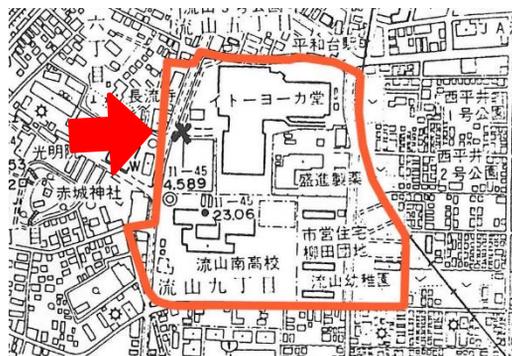
戦争と流山

第二次世界大戦が終わってから今年で七十六年になります。戦争中は日本の各地に軍の施設が置かれました。身近なところにも軍の施設があったことを、皆さん知っていますか？

柏には飛行場（現柏市柏の葉）が、流山には軍用馬の食料（馬糧）を製造する「陸軍糧秣本廠流山出張所」（通称・流山糧秣廠／ながれやまりようまつしよ）がありました。今回はこの流山糧秣廠について紹介します。

流山糧秣廠とは

流山糧秣廠は、馬糧の製造・供給を担う軍事施設です。流山糧秣廠が置かれたのは、現在の流山九丁目一帯、イトーヨーカドー流山店や流山南高校などがあるところです【資料1】。



【資料1】

「流山市立博物館調査研究報告書13」
P.78の図に一部加筆

線で囲った箇所が「流山糧秣廠」の敷地でした。×印が「陸軍糧秣本廠流山出張所跡碑」が建つ場所です。

大正十四年七月一日、東京本所錦糸堀（現東京都墨田区）にあった陸軍糧秣本廠本所倉庫が流山に移転してできました。流山の地が選ばれた理由には、干草やワラの生産地であった千葉県香取郡や茨城県南東部に近く、東葛飾郡自体も生産地であったことが挙げられます。生産地に近く、利根運河・利根川の水運や、流山鉄道（現流鉄流山線）を介して常磐線との乗り入れが可能

であったことなど、交通の便がよかった点も挙げられます。

糧秣廠での作業

実際に行われていた作業はどのようなものだったのでしょうか。

主な作業は、ワラやスキなどの干草、牧草を混ぜ合わせて乾燥させ、機械で押しかためて梱包するということです。押しかためるための機械には蒸気動力を使用しました。こうして作られた馬糧は一つが縦六十センチメートル、横百センチメートルの直方体で、四十キログラムありました。のちには戦地用の携帯馬糧も作られるようになり、これは縦十センチメートル、横十五センチメートルの直方体だったようです。

できあがった馬糧は、地元で「ガラガラ」と呼ばれた揚陸設備（架空輸送機）を使って江戸川岸

森の図書館
twitter
@N_mori
noto



発行
流山市立
森の図書館
指定管理者
株式会社
すばる

まで運ばれ、船に積み替えられました。そして近衛第一師団管下、関東一円の部隊、宮内省、警察庁へ補給されました。

糧秣廠で働く人々

流山糧秣廠で働いていた人々の多くは、軍属や民間人でした。軍属とは、軍隊のなかで戦闘に直接かわらない仕事を担当する人々のことです。職員は工員と守衛、消防職、事務職などに分けられ、勤務時間も異なっていました。工員の場合、午前七時から午後四時までの九時間で、始業時間が多少早くなっていたようです。流山糧秣廠は工員などの職員や軍属を地元から採用しており、そうした事情を踏まえての勤務時間であったと考えられます。戦争の拡大にともなって馬糧の増産が急務となり、昭和十四年頃からは強制残業が常時行われるようになりました。

労働時間が長くなってくる一方で、流山糧秣廠は福利厚生が充実していたようです。当時では珍しい保育所が昭和四年から昭和十八年まで設置されました。保育の採用とともに、保育に必要な絵本類、

積み木、千代紙、小箱類、室内用すべり台などが用意され、大工や鍛冶工、消防手の協力でブランコ、シーソー、砂場が作られました。そのほか、テニスコートも作られ、職員だけでなく町民も利用したそうです。また、入浴設備もあり、作業後に入浴することも可能でした。汚れの激しい仕事にあつては不可欠のものであり、早い時期から設けられていたと考えられます。

流山糧秣廠跡地のいま

終戦によって陸軍省が廃止されると、施設や倉庫は国鉄（現在のJR）へ移管され、輸送の中継点や用品庫として利用されました。その後、大蔵省の管理となつて民間等へ払い下げられ、キッコーマン、東邦酒類、町営柳田団地、流山幼稚園などの敷地になりました。現在では大型スーパー、ホームセンター、学校、市営住宅、保育園などになり、当時の面影はほとんど見られなくなっています。大型スーパーの敷地の一角に糧秣廠に関わつた人々が建てた碑【資料2】があり、流山糧秣廠の歴史を物語っています。近くを訪れる際にはぜひ足を運び、流山にある戦争の時代の面影にふれてみてはいかがでしょうか。



【資料2】

「元陸軍糧秣本廠流山出張所跡碑」

昭和55年、元所長らが中心となって建立しました。

参考文献

- ・『流山市立博物館調査研究報告書13 流山糧秣廠 附・参考資料』 流山市立博物館 1996年
 - ・『元陸軍糧秣本廠流山出張所史 付 瀧上浦治郎 自伝』 瀧上浦治郎 斎書房 1983年
 - ・『流山市史研究 第18号』 流山市教育委員会 2004年
 - ・『流山研究におどり 第7号』 流山市立博物館 友の会 斎書房 1988年
 - ・『東葛観光歴史事典 東葛流山研究 第16号』 流山市立博物館友の会 斎書房 1997年
- いずれも流山市立図書館の所蔵資料です。
- 協力・流山市立博物館